SAFE COMMUNITY TSURU CITY





親と子の安全対策委員会





発表日　2026年10月29日（木）

発表者　親と子の安全対策委員会

委員長　辻　康子

設置の背景

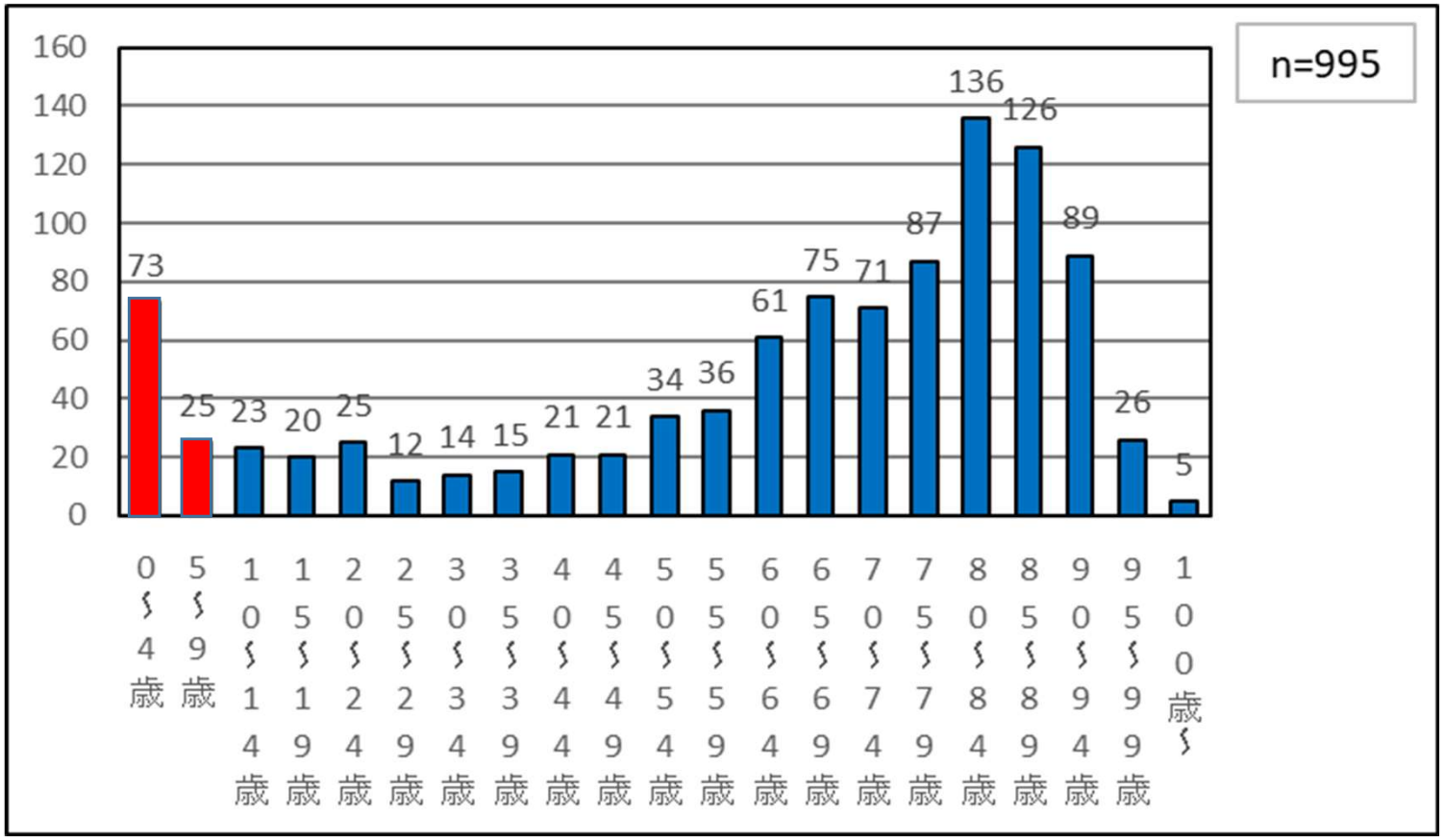
① ０～９歳の子どもの一般負傷による救急搬送の件数が多い。

② 家庭内でのケガや事故防止の意識が低いと思われる家庭が多い。

③ 子育ての負担感や責任が親に集中しており、子育てがストレスにつながっている。

背景①　：　一般負傷による救急搬送の状況

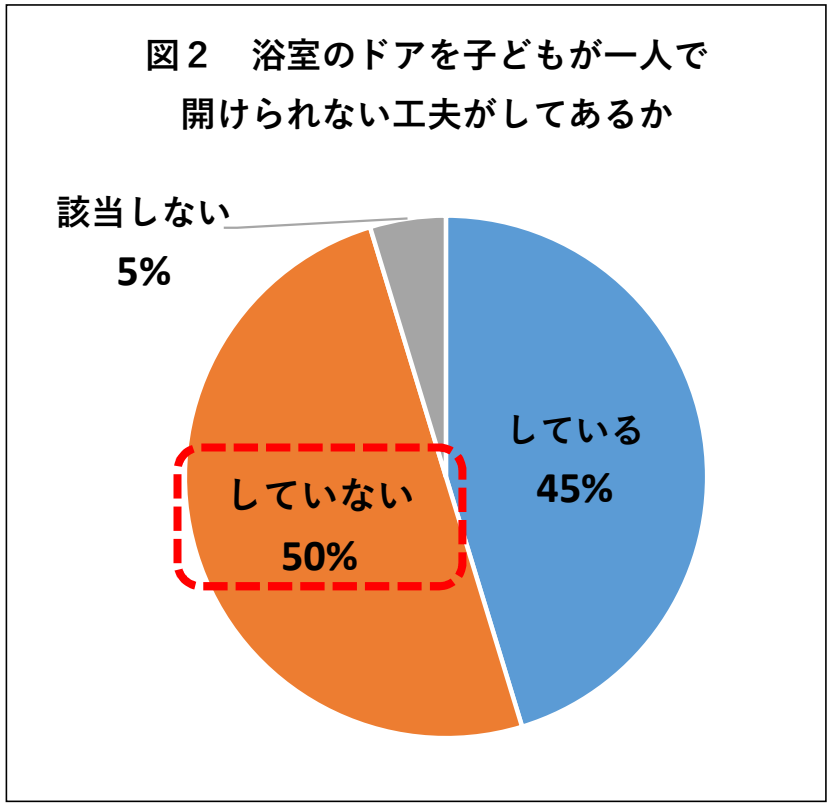
図１　一般負傷による救急搬送の年齢層別件数（2013～2017年合計）



出典：救急搬送データ

■ 子ども（ 特に0～9歳の年齢層 ）の一般負傷による救急搬送は、高齢者層に次いで多い。

背景②　：　ケガや事故防止対策の状況



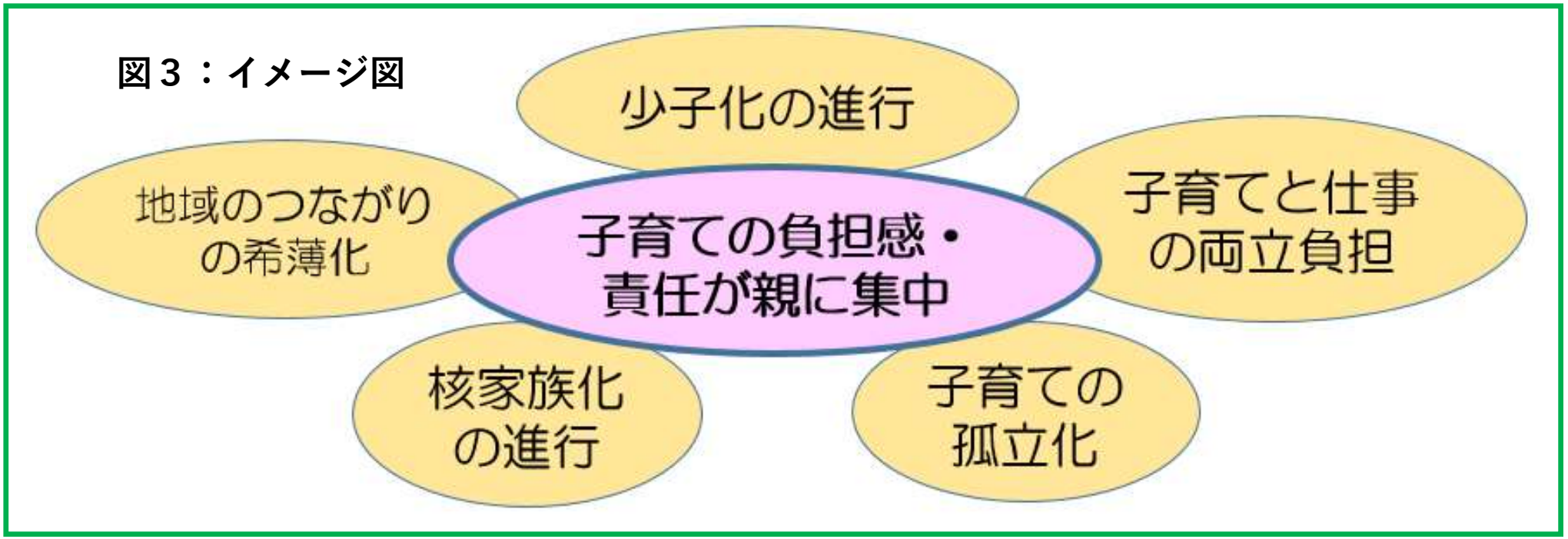
出典：2017
乳幼児健康診査データ（1歳6カ月）



■ 子どものいる家庭内で、ケガや事故防止対策を講じている家庭の割合は
約半数にとどまっており、ケガや事故防止に対する意識の低さが伺える。

背景③－１： 都留市の子育て環境の現状

図３：イメージ図



子育ての負担感が親のストレスを招く → 子どもの健やかな成長に影響する → 子どもの安全対策には親の存在が不可欠

背景③－２： 都留市の子育て環境の現状

問10　日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

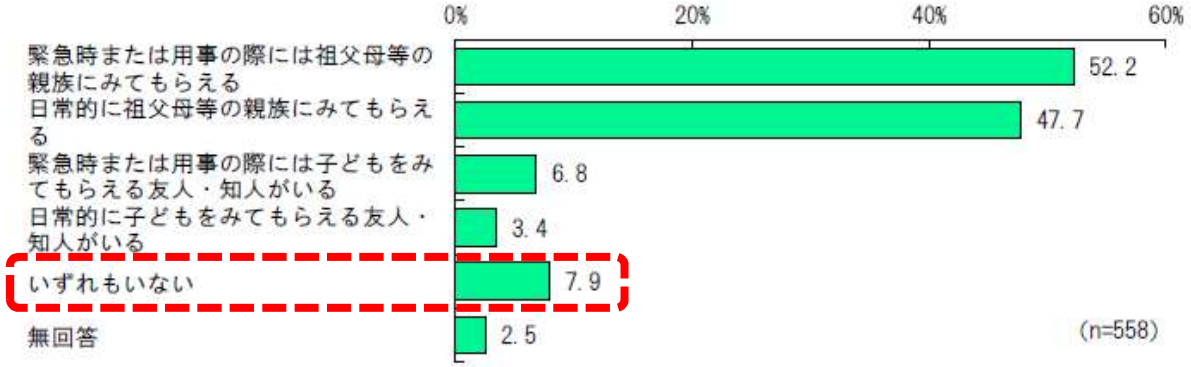
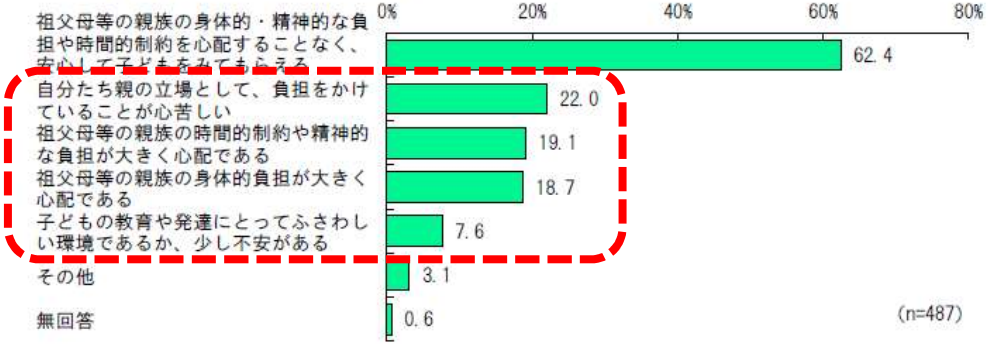


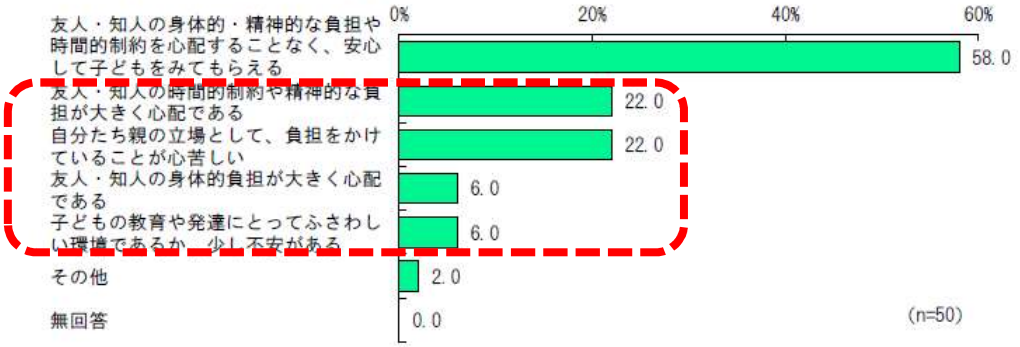
図４：子ども・子育てニーズ調査結果

出典：2018年
子ども・子育てニーズ調査

問10-1　問10で「１」または「２」に○をつけた方にうかがいます。
祖父母等の親族に宛名のお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



問10-2　問10で「３」または「４」に○をつけた方にうかがいます。
友人・知人に宛名のお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



■ **緊急時や用事の際に子どもを預けることができる人がいないと答えた人は少数だが、預けることができる人も実際には「心理的な負担・不安」を抱えている。**

対策委員会の構成

区　分	団　体　・　組織名	
住民組織 民間団体等	保護者代表 【 委員長 】	
	都留市主任児童委員 【 副委員長 】	
	NPO法人 にじいろのスイミー（ 放課後児童クラブ ）	
	都留文科大学　学生（ 公募市民 ）　NEW!	
行政機関	都留市教頭会	宝保育所
	都留市立病院	ー
	都留市（ 健康子育て課・学校教育課・生涯学習課 ）	

データに基づく問題

① 子どもの救急搬送は未就学児に多く、住宅内でのケガが多い。

（図5・6）

② 小中学生の学校内でのケガが多い。

（図7～10）

③ 子育てのしにくさを感じている親の割合が多く、
子育て中の親が相談できる場が少ない。

（図11～13）

④ 子どもへの無意識の虐待が多い。

（図14～16）

問題の背景（次ページ）

問題①：子どもの家庭内でのケガが多い

図５　子どもの一般負傷による救急搬送件数

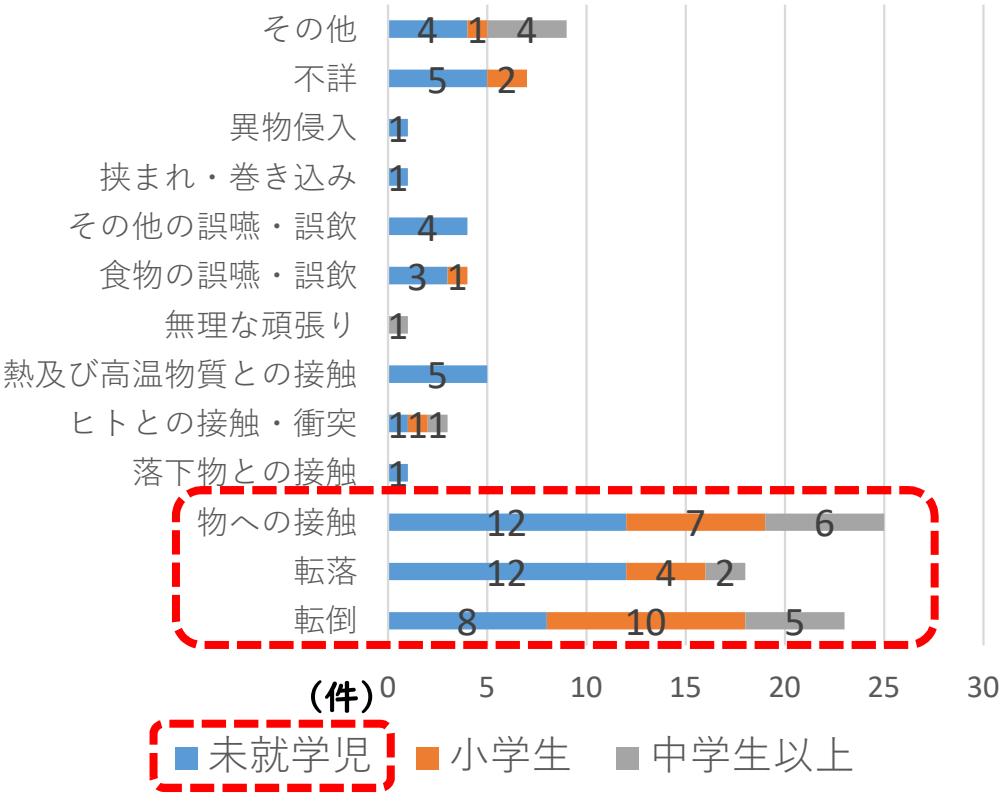
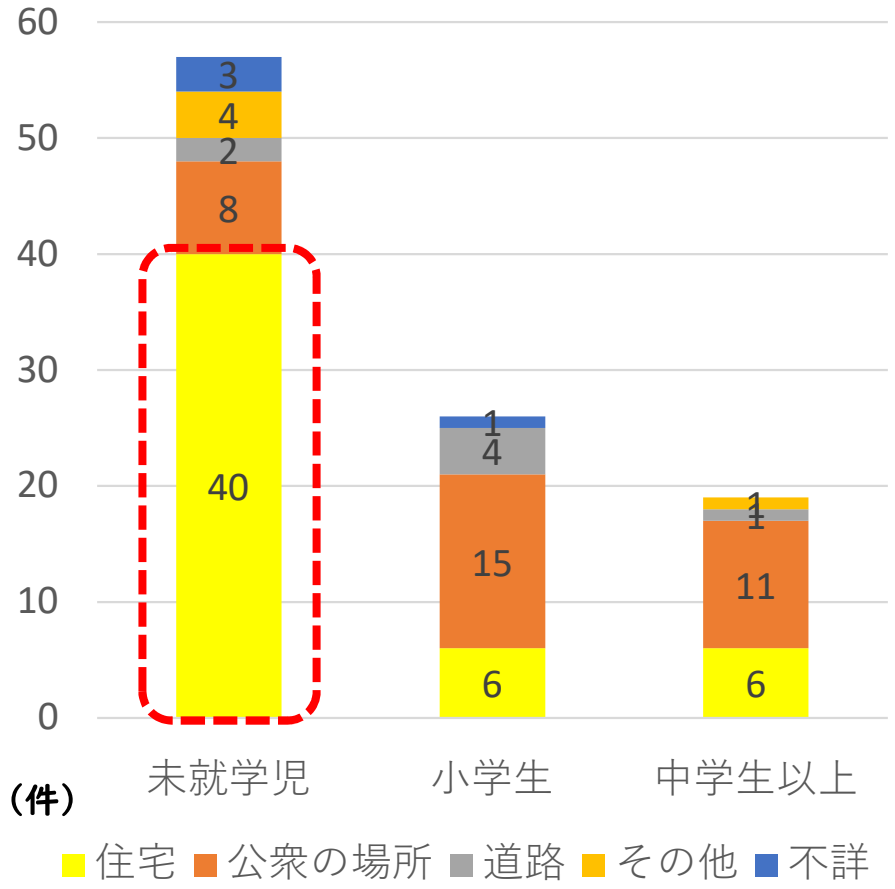


図６　救急搬送年齢別・場所別件数



出典：2021-2025
一般負傷による救急搬送データ

■ 一般負傷による子どもの救急搬送は未就学児に多く、住宅内で発生している。
なお、負傷原因は「転落」・「転倒」・「物への接触」が多い。

問題②－１：小学生の学校内のケガが多い

図７　場合別発生件数割合（2023年－2025年の合計）

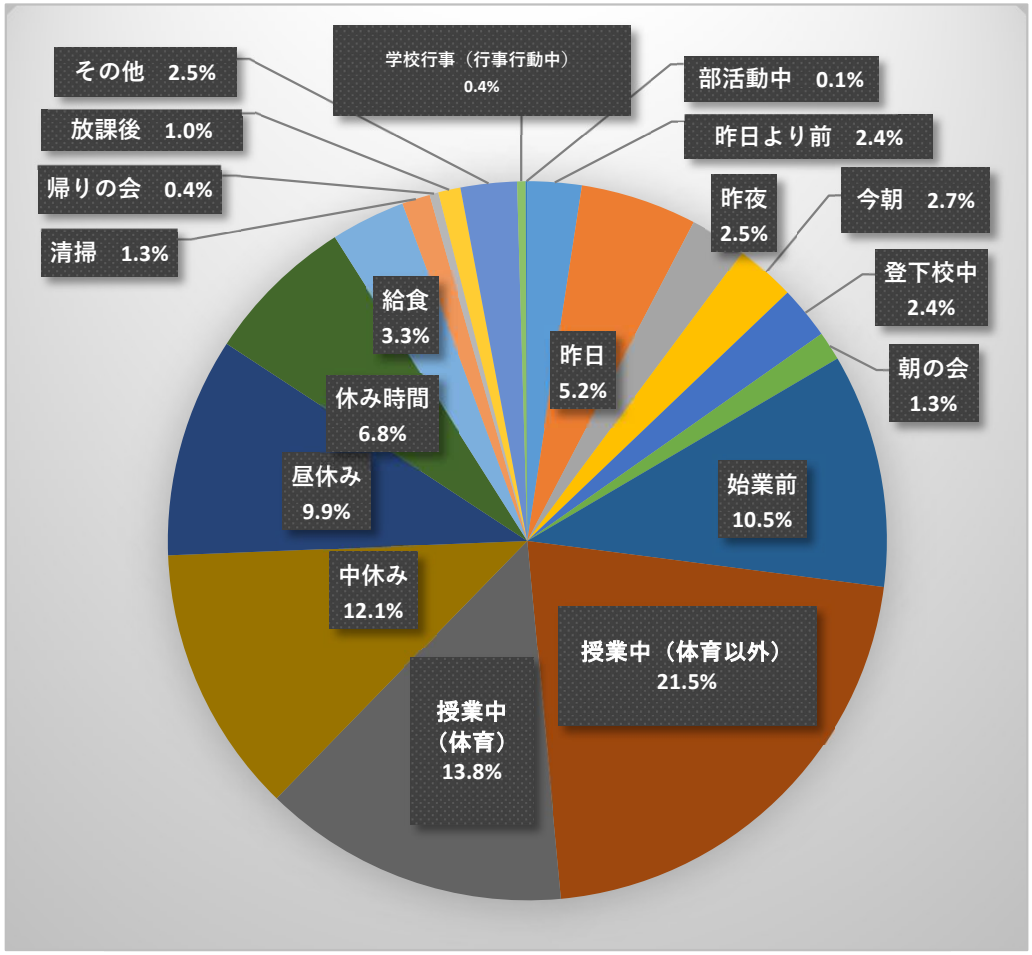
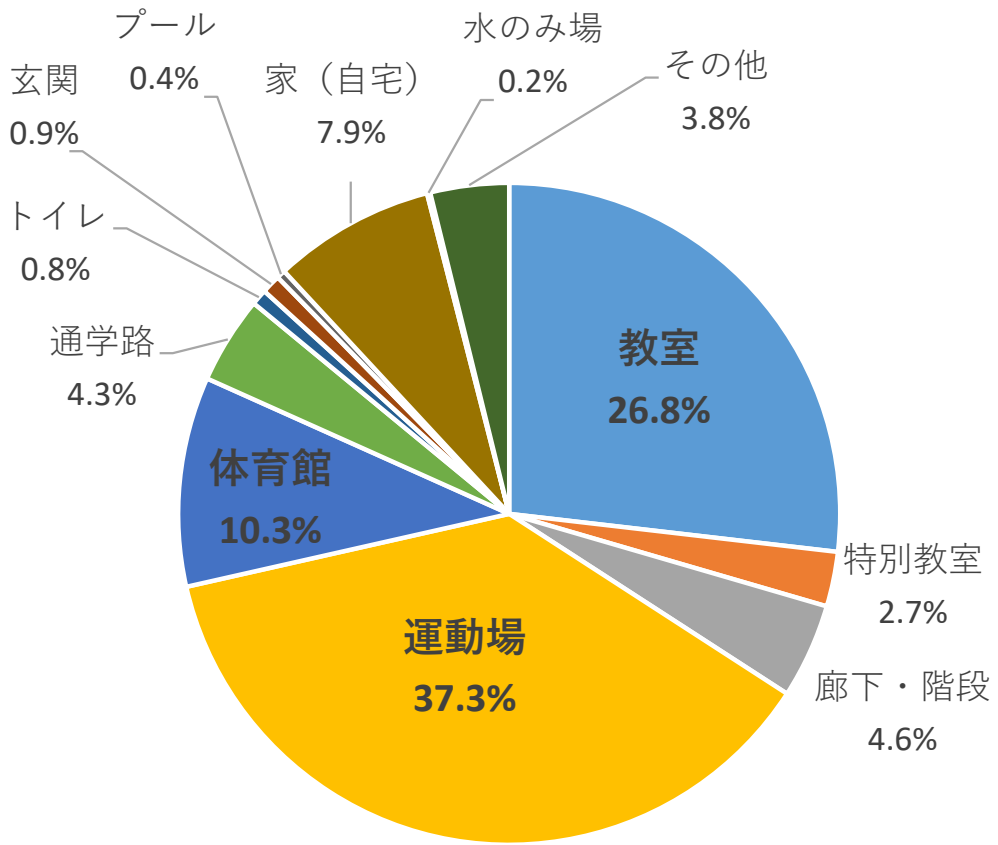


図８　場所別発生割合（2023年－2025年の合計）



出典：保健室来室データ

小学生の学校内でのケガは、授業中やそれぞれの休み時間において多く発生しており、発生場所については、運動場、教室、体育館が多い。

問題②－２：中学生の学校内のケガが多い

図９　場合別発生件数割合（2023年－2025年の合計）

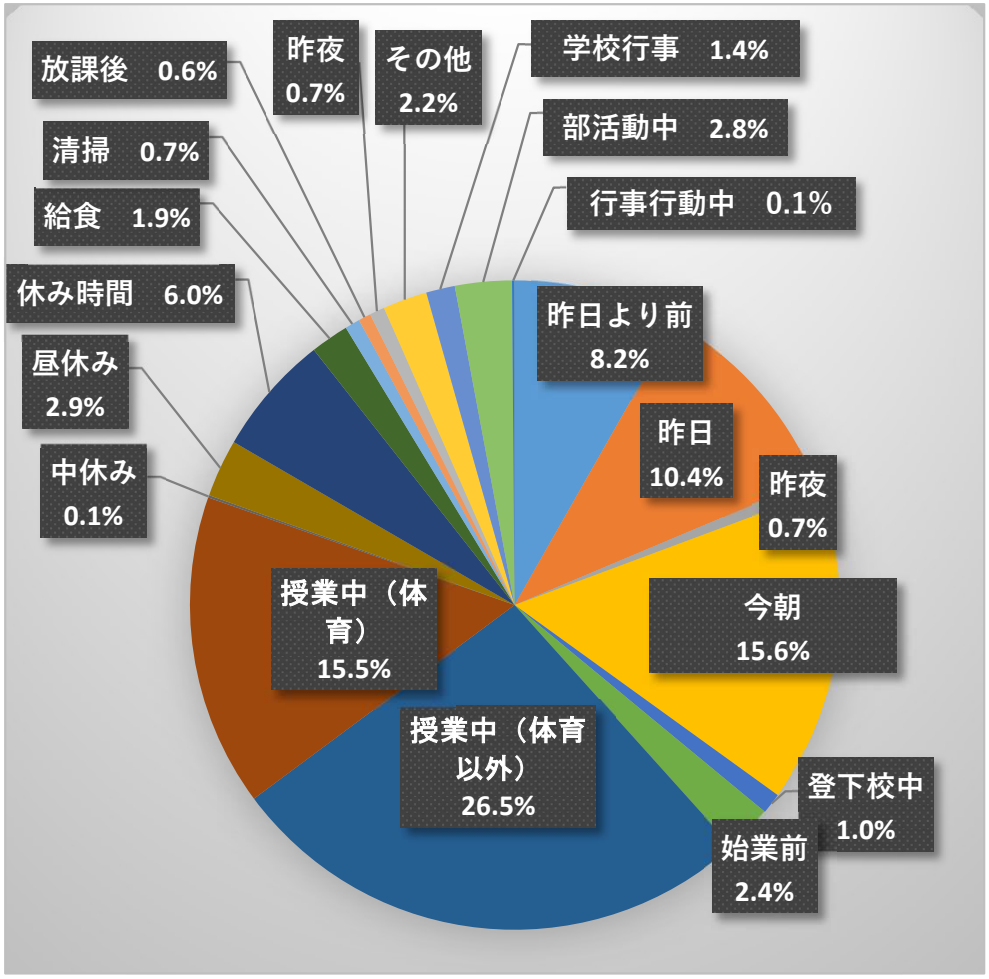
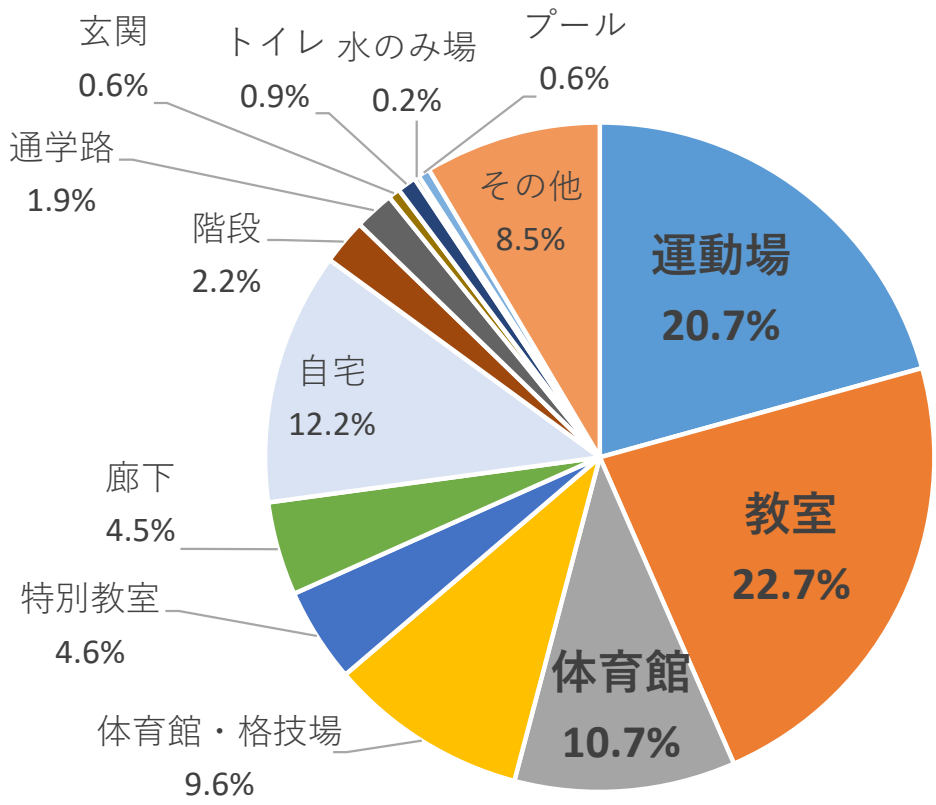


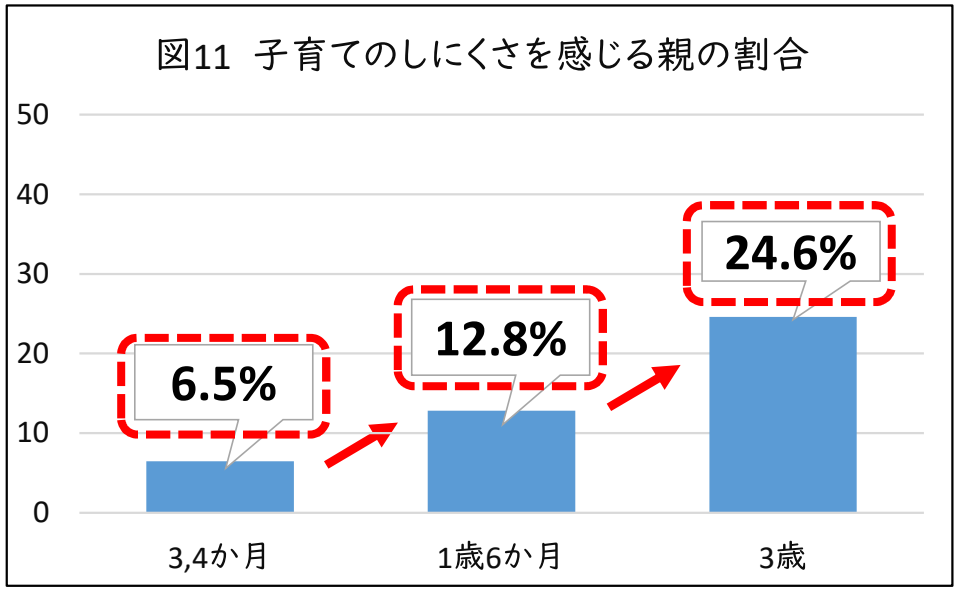
図10　場所別発生割合（2023年－2025年の合計）



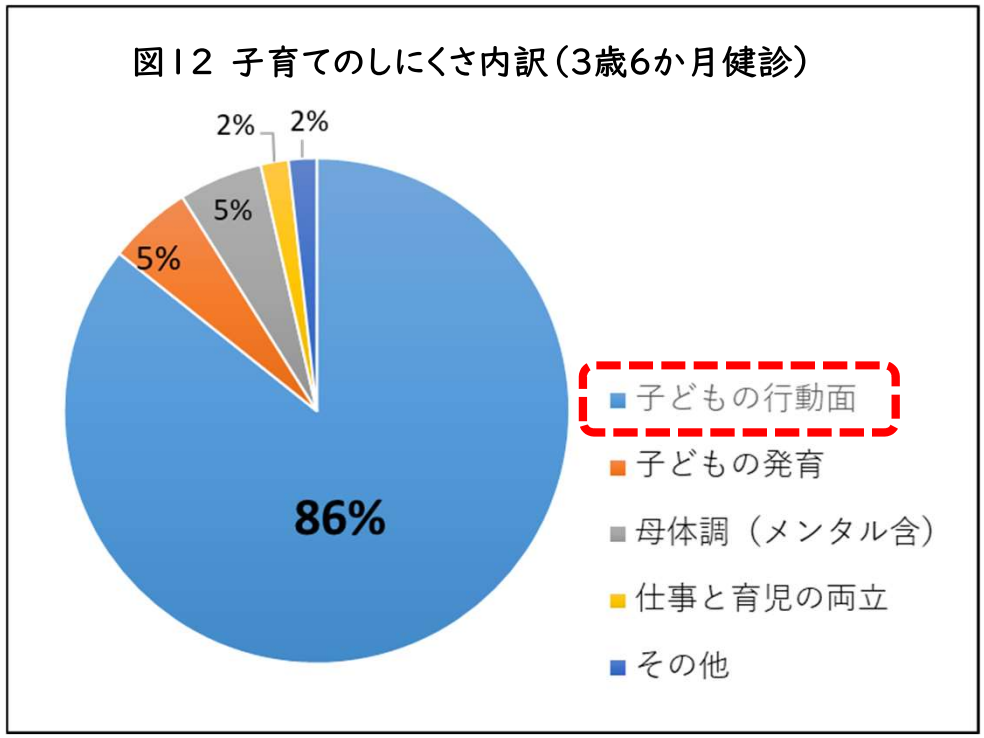
出典：保健室来室データ

中学生の学校内でのケガは、授業中や早朝に発生しており、発生場所については、運動場・教室・体育館が大半を占めている。

問題③－１：子育てのしにくさを感じる親が多い



出典：2024
乳幼児健康診査データ



出典：2017
乳幼児健康診査データ

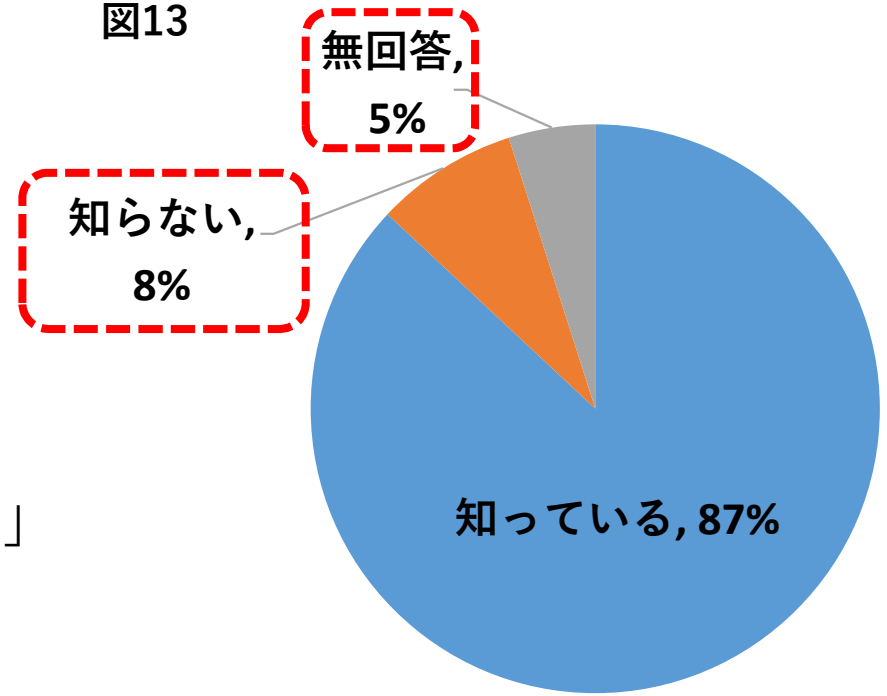
■ 子育てのしにくさを感じる親の割合は、子どもの年齢が上がるにつれて上昇し、
その最大の要因については、子どもの行動が親の思うようにならないこと。

問題③－２：子育て中の親が相談できる場が少ない

子育てのしにくさを感じる方に対して…

「Q.育てにくさを感じた時に、
相談先を知っているなど
何らかの解決方法を知っていますか？」

図13

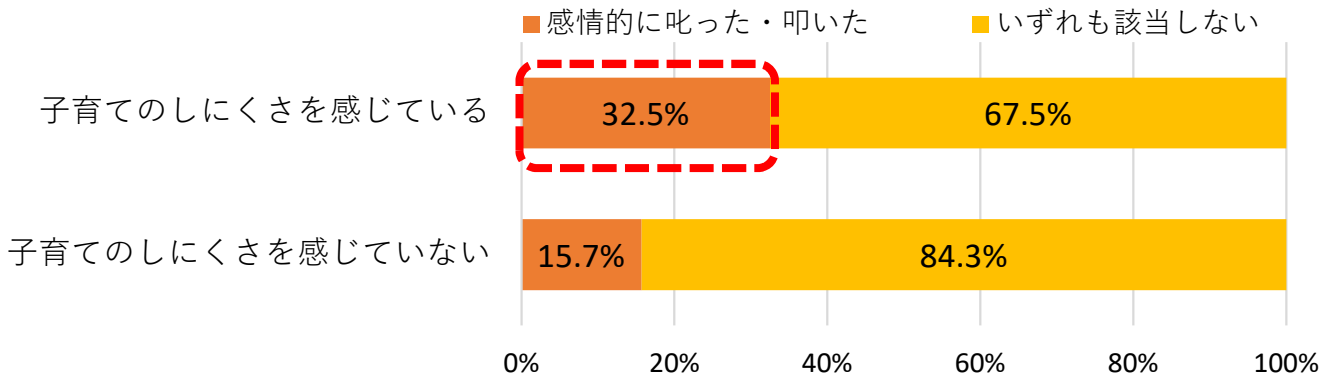


出典：2024
乳幼児健康診査データ

■ 子育てのしにくさを感じている親の中で、困った時の解決方法を知っているのは約９割。
約１割の方については、困ったことがあっても相談につながらない可能性がある。

問題④－１：子どもへの虐待が多い

図14　子育てのしにくさの有無と虐待の状況



出典：乳幼児健康診査データ(2023)

■ 子育てのしにくさを感じる人のうち、この数か月間に、子どもを感情的に叱ったり、叩いたりしたことがある人の割合は32.5%（子育てのしにくさを感じない人では15.7%）

⇒　子育てにストレスを感じている人ほど、子どもへの虐待リスクは高い。

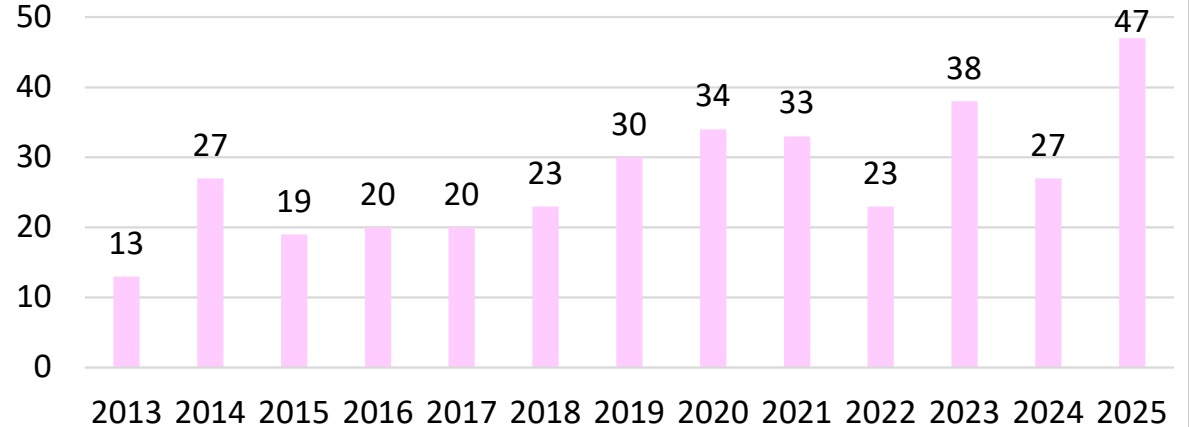


図15　児童虐待受理件数(2013年～2025年)

■ 虐待の通告・相談件数は、増加傾向にある。

出典：市町村虐待調査

問題④－２：虐待に対する意識が低い

虐待に関する意識調査　【 対策委員会：独自 】

- 2019年の「産業まつり」の際に、委員会独自で虐待に関する意識調査を実施

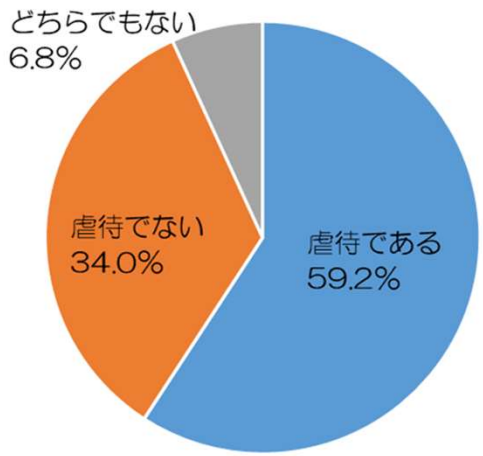
  ⇒　10代～高齢層までの男女：147人に対して、６項目を聞き取り。



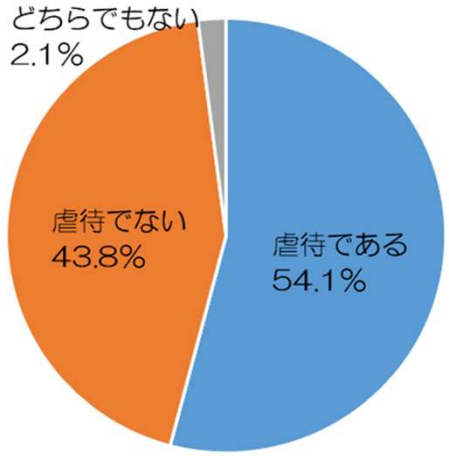


図16　虐待に関する意識調査結果

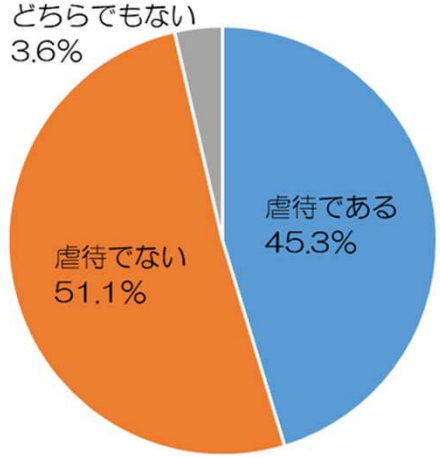
①しつけとして子どもをたたく



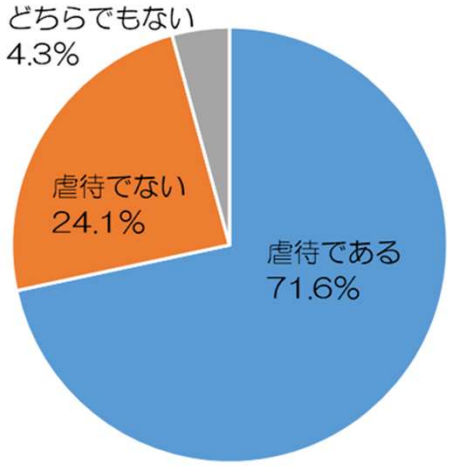
②子どもの前で夫婦喧嘩をする



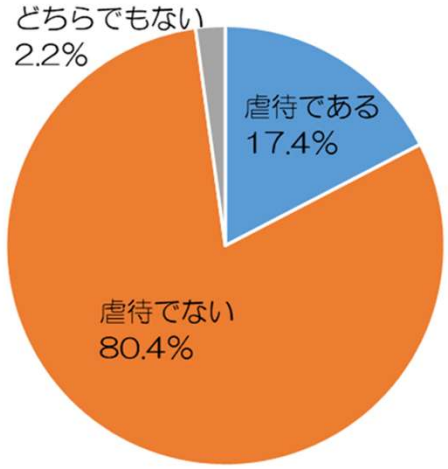
③兄弟・姉妹を色々な場面で比較する



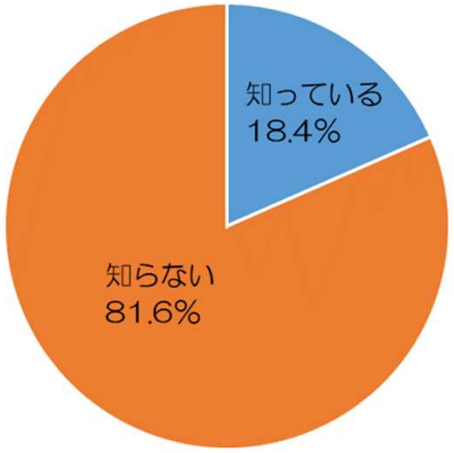
④子どもが悪いことをしたので、
罰として、話しかけられても無視する



⑤お風呂上りに下着も付けずに、
子どものいる居間に行く



⑥ ☎189を知っていますか？
（児童相談所虐待対応ダイヤル）



■ ①～⑤まで全て虐待に該当するが、その認識がない人が多い結果となった。

問題に対する課題・方向性

問題点	課題（プログラム）	目標（目指す姿）
①乳幼児期の家庭内での事故やケガが多い（図5・6）	乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止対策に係る保護者への啓発と環境整備の促進	①乳幼児の家庭内での事故やケガの減少
②小中学生の学校生活におけるケガが多い（図7～10）	学校での過ごし方の分析と環境整備の促進	②学校内でのケガの減少
③子育て中の保護者が相談できる場が少ない（図11～13）	子育て中の保護者が気軽に相談できる場の創出	③子育てのしにくさや不安の解消
④子どもへの虐待が多い（図14～16）	虐待に対する正しい知識の周知	④児童虐待の減少

課題①に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題① 乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止対策に係る保護者への啓発と環境整備の促進	啓発教育	・「子どもを事故から守る！プロジェクト」の実施（消費者庁・こども家庭庁） ・「子どもの事故防止ハンドブック」の配布 ・「やまなし子育てハンドブック」の配布	・赤ちゃん広場の実施（子どもの発達と危険防止についてワンポイント学習） ・7ヶ月児健康相談（危険防止のチラシ、やまなし子育てハンドブックの配布） ・「つるし子育て応援ガイドブック」の配布	・各家庭での事故防止対策（階段への柵設置等）
	環境整備	・「#8000」こども医療電話相談 ・産前産後ケアセンターでの子育て相談（24時間365日）	・こども家庭センターの設置 ・都留市地域子育て支援センター「はぐっと」の設置	・子育て支援サークル ・主任児童委員の相談受付
	規則・罰則			

プログラム①

・乳幼児期の家庭内での事故やけが防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進

→ 啓発チラシの配布 ／ 啓発媒体の作成配布

課題②に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題② 学校での過ごし方の分析と環境整備の促進	啓発 支援	・「地域における通学時等の防犯対策ハンドブック」の配布	・学校施設、遊具の定期点検 ・体育や部活動前の準備運動 ・「保健だより」によるけが防止意識の向上 ・保健室来室時の指導 ・「都留リーダーサミット」の開催	・スクールガードによる登下校時の安全確保
	環境 整備		・安全な学校づくりのための「ISS」への取り組み	
	規則・ 罰則			

プログラム②

・学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上

→ 保健室来室記録データの分析結果の提供 ／ ISSとの連携

課題③・④に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題③ 子育て中の 保護者が気軽に 相談できる場の創出 課題④ 虐待に対する 正しい知識の周知	啓発 支援	・こどもの虐待防止推進 全国フォーラム ・オレンジリボン運動 ・虐待防止月間（毎年11月） にあわせたポスター／ リーフレットの配布 ・「やまなし子育てハンド ブック」の配布	・やまなし子育てハンドブックの 配布 ・「189」／親子のための相談 LINEの周知 ・市HP掲載	・近隣住民や関係機関から の通報
	環境 整備	・児童相談所虐待対応 ダイヤル「189（いちはやく）」 ・親子のための相談LINE	・こども家庭センターの設置 ・都留市地域子育て支援 センター「はぐっと」の設置 ・都留市要保護児童対策地域 協議会の設置	
	規則・ 罰則	・児童虐待の防止等に関する 法律に基づき、虐待は禁止 （刑法による刑事罰を適用）		

プログラム④

・市民に対する虐待に係る正しい知識の周知

→ 啓発動画の作成／啓発物品の作成配布

プログラム③

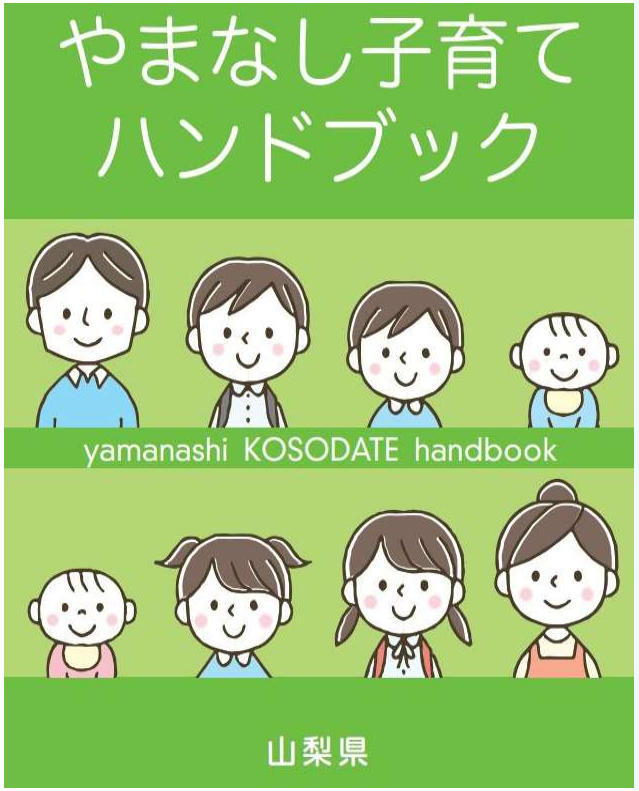
・子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知

→ チラシの配布 ・ 子育てほっとステーションの設置

市内の各種イベント時にブース出展（ SC活動等のPR ）

環境面への取り組み

【 国・県レベル 】



1. **妊娠と出産**
   - 妊娠したら
   - 赤ちゃんが生まれたら
2. **子育てをサポートします!**
   - 経済的サポート･保護制度等について
   - 仕事と育児を両立するための制度
   - 社会全体で子育て応援
   - 赤ちゃんもママもパパも一緒に成長
3. **子どもの健康や医療**
   - 病気や事故から子どもを守る
   - 離乳食から始める食育について
4. **子どもを預ける、施設を利用する**
   - 県内の病児保育
   - 教育･保育施設
   - 多様な子育て支援事業
5. **相談と支援**
   - ひとり親家庭のために
   - 障害のある子どものために
   - ひとりで悩まないで
   - 育児と介護のダブルケアになったら
6. **子育てに便利な情報一覧**









「親子のための相談LINE」は、子育てや親子関係について悩んだときに、
こども（18歳未満）とその保護者の方などが相談できる窓口です。

匿名可能
匿名（LINE上のアイコンとニックネーム）
でも相談ができます。

秘密厳守
相談内容の秘密は守られます。

ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。

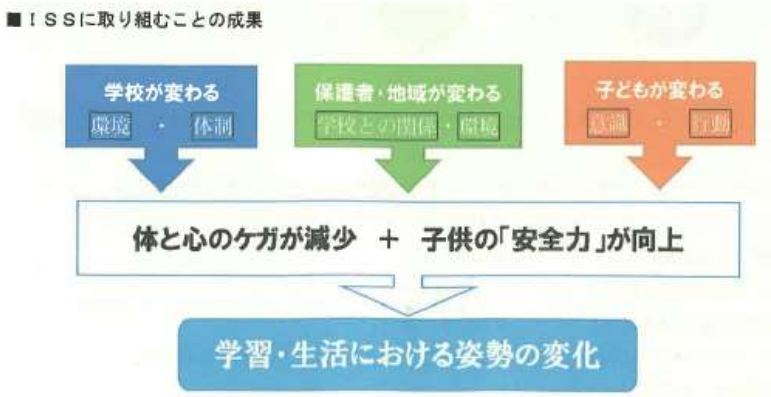
環境面への取り組み

【 市レベル 】

■「ISS（International Safe School）への取り組み（国際認証）

○ ISS とは・・・
- 身体／心のけが及びその原因となる事故、いじめ、暴力等を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動。
- 認証されることは、事故やけがのリスクが100%安全な学校として認められることではなく、安全な学校づくりのための仕組みが確立され、継続的に機能していることが認められるということ。

⇒ モデル校として「谷村第一小学校」・「都留第二中学校」が取り組んでおり、今後、全ての小中学校で展開予定。



（ ISS取り組み開始宣言の様子 ）





【 地域レベル 】

■ スクールガード





環境面への取り組み

【 市レベル 】

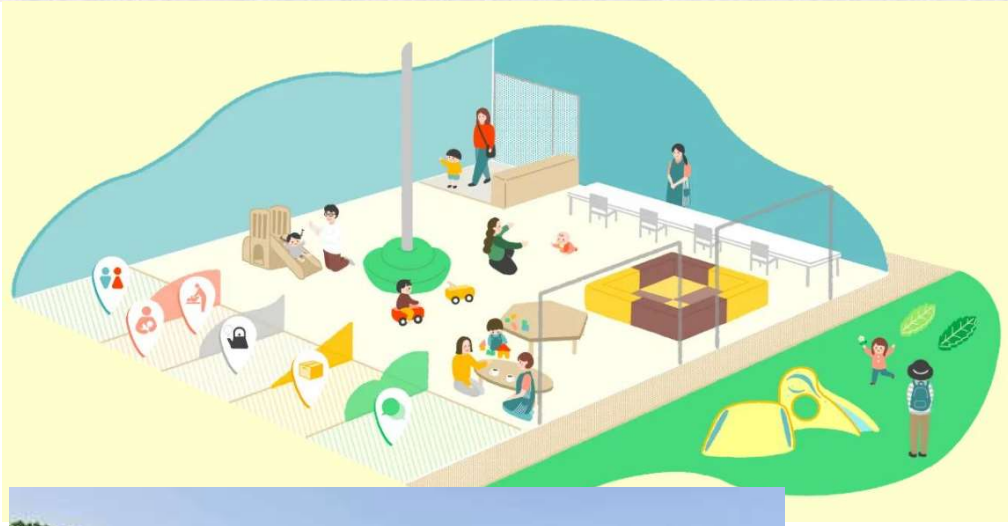
○こども家庭センターとは？

母子保健機能と児童福祉機能を統合した一体的な相談体制を整備するため、令和6年4月1日から健康子育て課内に「こども家庭センター」を設置しました。



子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）

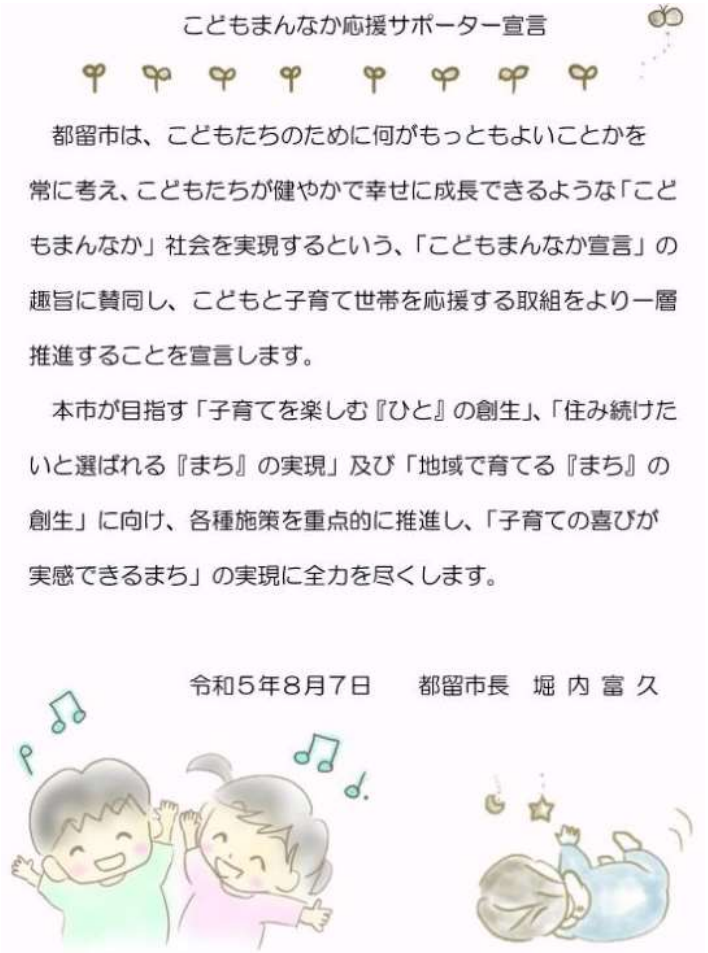
地域子育て支援拠点事業とは、乳児又は幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所（子育て支援センター）を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うことにより、子育ての不安等を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的とする事業です。





本市独自の取り組み

【 市レベル 】





【X（旧Twitter）】
ページ名：山梨県都留市（@TsurucityKouhou）
twitter.com/TsurucityKouhou

【Instagram（インスタグラム）】
ページ名：山梨県都留市（@tsuru.city）
www.instagram.com/tsuru.city/

【Facebook（フェイスブック）】
ページ名：都留市（@kouhou.tsuru）
www.facebook.com/kouhou.tsuru/

【LINE（ライン）】
アカウント名：tsurucity
友だち追加





プログラムの運営状況

■ 各種プログラムについて継続して実施する中で、新たな取り組みを検討し、積極的に実施している。（プログラム②は自走により、必要に応じて連携）
⇒　啓発媒体／物品の作成・配付、市内各種イベントへのブース出展 等

区分	進行状況					
	2021年（認証）	2022年	2023年	2024年	2025年（事前指導）	2026年（現地審査）
プログラム① 乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進	チラシ配布			啓発媒体作成	啓発媒体配付開始	継続
プログラム② 学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上			ISSへの取り組み	方向性検討	【独立】	連携
プログラム③ 子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知		チラシ配付	ブース出展（各イベント）	アンケート実施		継続
プログラム④ 市民に対する虐待に係る正しい知識の周知	啓発動画作成①	啓発動画作成②	啓発物品作成	啓発物品配付開始	出前講座開始	

プログラム①

乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進

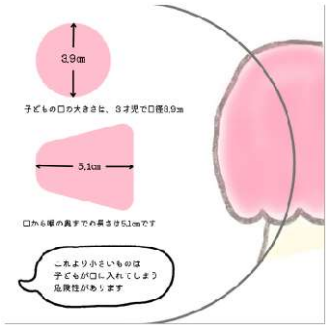
課　題	乳幼児期は、ケガや事故が家庭内で発生しており、乳幼児期の家庭における十分な安全対策が必要である。		
目　標	乳幼児の家庭内でのケガや事故の減少　NEW!		
内容等	家庭内でのケガや事故防止に資するチラシ／啓発媒体の作成配布		
	【対　象】	乳幼児や未就学児を養育する保護者	
	【人　材】	対策委員会・都留市・保育園・認定こども園	
区　分	指　標　【方向性】		測定方法
（短　期） 認識や知識の変化	家庭での防止対策を認識している家庭の割合 【認識している家庭の割合の増加】		対策委員会個別アンケート
（中　期） 態度や行動の変化	家庭で安全対策をしている家庭の割合 【対策をしている家庭の割合の増加】		乳幼児健診問診票
（長　期） 状態や状況の変化	一般負傷による事故件数 【事故件数の減少】		救急搬送データ

活動内容

■ 乳幼児の家庭内でのケガや事故防止のための啓発媒体の作成



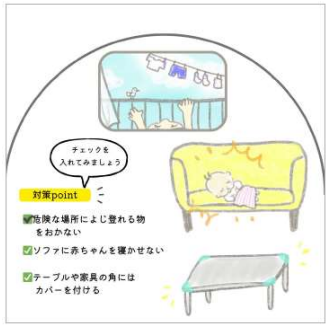






















・子どもの身長が計測できる仕組みのある啓発媒体

⇒　1歳児の手が届く範囲の目安として「90cm」まで計測可能

※ 1度見て終わりにならないよう実用性を意識して作成

プログラム①の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	啓発チラシの配布数 啓発媒体の配布数	赤ちゃん広場：8枚 7ヶ月健診：125枚 園児世帯：697枚	赤ちゃん広場：6枚 7ヶ月健診：157枚	赤ちゃん広場： ポスター掲示 7ヶ月検診：149枚	赤ちゃん広場： ポスター掲示 7ヶ月健診：137枚	赤ちゃん広場： ポスター掲示 7ヶ月相談：118枚
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） 家庭での防止対策を認識している家庭の割合	－	－	－	－	53人／57人 （93%）
	態度・行動（中期） 家庭で防止対策をしている家庭の割合	104人／193人 （53.9%）	86人／153人 （56.2%）	95人／148人 （64.2%）	78人／148人 （52.7%）	78人／127人 （61.4%）
	状況（長期） 一般負傷による事故件数	6件（0～4歳） 2件（5～9歳）	23件（0～4歳） 5件（5～9歳）	7件（0～4歳） 3件（5～9歳）	14件（0～4歳） 6件（5～9歳）	11件(0～4歳) 5件(5～9歳)

アウトプット － 赤ちゃん広場や7ヶ月健診の場で対象者にチラシや媒体を配布することで確実に実施
アウトカム（短期） － 元々、中期と同内容であったため、2025年から「認識している家庭の割合」に変更
アウトカム（中期） － 乳幼児健診問診票の設問に設定することで、毎年度の動向を把握
アウトカム（長期） － 救急搬送データの分析によって、毎年度の動向を把握

プログラム②　【独立】
学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上

<table>
<tr><td>課　題</td><td colspan="3">小中学生の学校生活中のケガ予防に資する対策を充実させる必要がある。</td></tr>
<tr><td>目　標</td><td colspan="3">小中学生の学校生活におけるけがの減少</td></tr>
<tr><td rowspan="3">内容等</td><td colspan="3">保健室来室記録データ分析結果データ等の児童生徒連絡協議会への提供／
「ISS（International Safe School）」との連携</td></tr>
<tr><td>【対　象】</td><td colspan="2">市内の小中学生</td></tr>
<tr><td>【人　材】</td><td colspan="2">対策委員会・都留市教育委員会・小学校・中学校</td></tr>
<tr><td>区　分</td><td>指　標【方向性】</td><td>測定方法</td></tr>
<tr><td>（短　期）
認識や知識の変化</td><td>校内における事故やけが防止に資する
周知活動【周知活動の増加／維持】</td><td>学校数</td></tr>
<tr><td>（中　期）
態度や行動の変化</td><td>取り組みを実施した学校の割合
【取り組みの増加／維持】</td><td>学校数</td></tr>
<tr><td>（長　期）
状態や状況の変化</td><td>校内における事故やけがの件数
【事故やけがの件数の減少】</td><td>保健室来室記録データ</td></tr>
</table>

プログラム②の評価

ISSとの連携は、児童生徒の自主性を尊重し、必要に応じて関わっていく形が現実的であり、プログラムからは独立させることとなったため、2025年は記載なしとしています。

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数（ISSとの連携回数）	－	－	1回（取組説明・意見交換）	1回（都留リーダーサミットに参加）	プログラムから独立となったため、記載なし
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） 校内におけるケガや事故防止に資する周知活動	11校／11校	11校／11校	10校／10校	10校／10校	
	態度・行動（中期） 取り組みを実施した学校の割合	11校／11校	11校／11校	10校／10校	10校／10校	
	状況（長期） 校内におけるケガや事故の件数	小学校：3,036件 中学校：823件	小学校：3,024件 中学校：793件	小学校：3,747件 中学校：792件	小学校：3,544件 中学校：1,465件	

アウトプット － ISSとの連携回数として、2023年：意見交換の実施、2024年：都留リーダーサミットへの参加
アウトカム（短期） － 全ての小中学校で周知活動を実施
アウトカム（中期） － 全ての小中学校で取り組みを実施
アウトカム（長期） － 保健室来室記録データの分析によって、毎年度の動向を把握

活動内容

■「ISS（International Safe School）」との連携
（都留リーダーサミットへの参加）

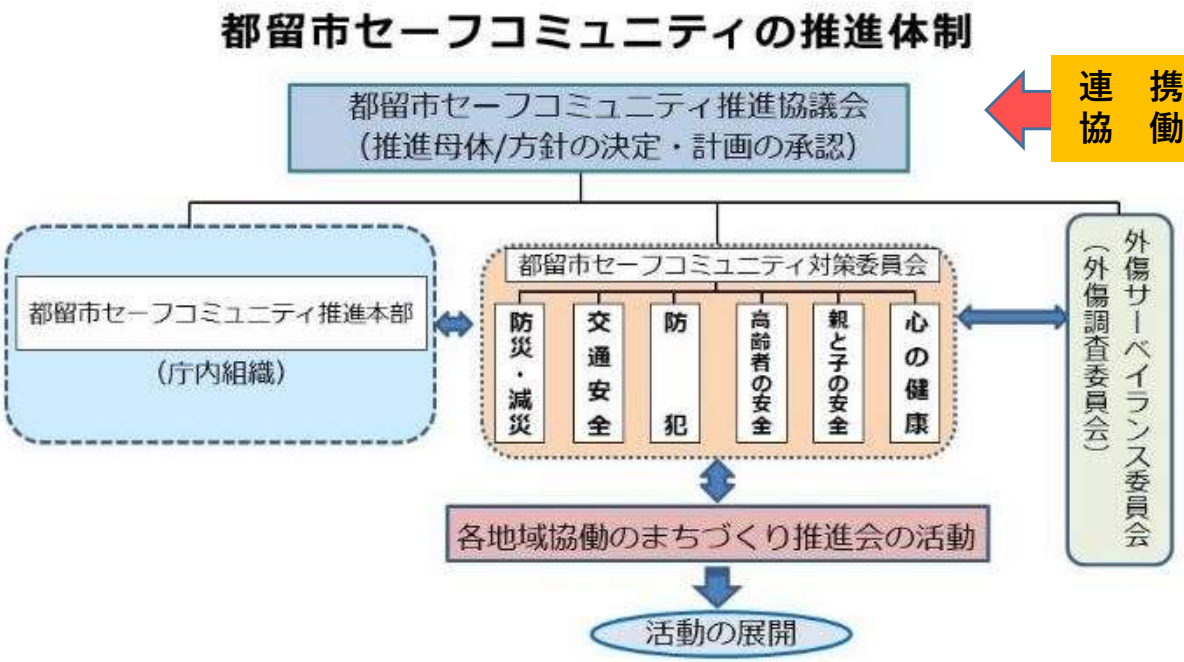
【 2024年 都留リーダーサミットの様子 】





※ 2025年3月26日に開催した対策委員会の中で今後の方向性について協議

【今後の方向性まとめ】



連携協働

ISS（International Safe School）

都留市児童生徒連絡協議会



児童生徒主体の安全安心な学校づくりに向けた活動の開始に伴い、本対策委員会としてのプログラムから独立

「都留市セーフコミュニティ全体」として「ＩＳＳ」と連携

プログラム③
子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知

課　題	育児不安を感じている親の割合が子どもの月齢が上がるにつれて上昇している。	
目　標	子育てのしにくさや不安が解消される。	
内容等	チラシの配布・子育てほっとステーションの設置 市内の各種イベント時にブース出展（SC活動／子育て支援PR） NEW!	
	【対　象】	子育て中の保護者
	【人　材】	対策委員会・都留市 ・地域子育て支援センター
区　分	指　標【方向性】	測定方法
（短　期） 認識や知識の変化	地域子育て支援センター利用者数 【利用者数の増加】	地域子育て支援センター（4ヶ所） からの報告件数
（中　期） 態度や行動の変化	子育て相談窓口利用件数 【相談件数の増加】	地域子育て支援センター（4ヶ所） からの報告件数
（長　期） 状態や状況の変化	困った時の解決策を知っている人の割合 【解決策を知っている人の割合の増加】	乳幼児健診問診票

活動内容

■「子育てほっとステーション」の設置（設置主体：都留市）

・2022年4月に子育てに関する総合相談窓口として、健康子育て課内に「子育てほっとステーション」を設置した。（ワンストップの相談対応を実施する体制を構築）





活動内容

■ イベントへのブース出展

【 射的／わなげ等 】

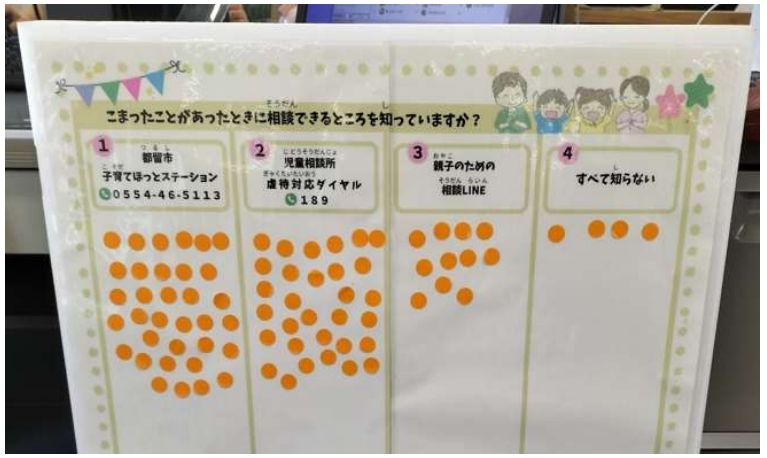


【 缶バッジ作成 】



【 アンケート調査 】





子育て中の保護者に対して、直接アプローチする絶好の機会となっている。

また、成果指標を図るためのアンケート調査の機会としても活用している。

活動内容

■ ブース出展時に委員会独自に作成したチラシを配布





プログラム③の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
（活動指標）アウトプット	啓発チラシの配布数	－	1,085枚	1,109枚	1,002枚	942枚
	ブースの出展回数	－	－	1回	3回	3回
（成果指標）アウトカム	意識・知識（短期） 地域子育て支援センター利用者数	2,601人	2,911人	10,734人	12,476人	12,848人
	態度・行動（中期） 子育て相談窓口利用件数	50件	149件	339件	365件	493件
	状況（長期） 困った時の解決策を知っている人の割合	57人／81人（70.4%）	50人／62人（80.6%）	49人／59人（83.1%）	45人／51人（88.2%）	38人／47人（80.9%）

アウトプット － 子育てほっとステーション等において対象者に確実に配布・説明を実施
アウトカム（短期） － 市内4ヶ所の地域子育て支援センターからの報告件数を集計して、毎年度の動向を把握
アウトカム（中期） － 市内4ヶ所の地域子育て支援センターからの報告件数を集計して、毎年度の動向を把握
アウトカム（長期） － 乳幼児健診問診票の設問に設定することで、毎年度の動向を把握

プログラム④
市民に対する虐待に係る正しい知識の周知

課　題	子どもへの無意識の虐待が多いので、虐待に対する正しい知識と防止のための十分な対策が必要である。	
目　標	児童虐待（要保護・要支援児童）が減少する。 NEW!	
内容等	啓発動画（YouTube）の作成・啓発物品（定規）の作成配布・出前講座	
	【対　象】	子ども・保護者・地域住民
	【人　材】	対策委員会・都留市・児童相談所
区　分	指　標【方向性】	測定方法
（短　期） 認識や知識の変化	児童虐待に関する意識の向上 【子どもの権利を知っている子どもの人数の増加】	啓発動画の閲覧回数 イベント時の個別アンケート調査
（中　期） 態度や行動の変化	児童虐待に係る相談・通告件数 【相談・通告件数の増加】	市虐待調査
（長　期） 状態や状況の変化	要保護・要支援児童の人数 【要保護・要支援児童数の減少】	市虐待調査

活動内容

■「啓発動画（YouTube）」の作成





【 第1弾　内容 】

虐待と認識されにくい行為の理解促進

虐待の防止について

【 第2弾　内容 】

「心理的虐待」、「身体的虐待」、

「性的虐待」についての理解促進

活動内容

■「啓発物品（定規）」の作成

子どもに直接、「子どもの権利」及び「相談窓口」を広く周知・啓発するため、
日常的に利用する文房具（定規）を委員会独自に作成。

【 啓発チラシ 】





【 オリジナル定規 】

※ 11月の「虐待防止月間」に併せて、
啓発チラシと一緒に配布

参 考

【 出 典：2025年3月26日 山梨日日新聞 】

児童虐待 最多22万5509件
23年度 山梨1418件 3番目の多さ

「全件対応」で児相疲弊
目立つ離職「再考必要」

児童虐待



東京都の江戸川区児童相談所

児童虐待相談対応件数が最多を更新するにつれ、児童相談所の負荷が増している。虐待通告から48時間以内に子どもの安全確認をするルールがあり、疲弊しがちな児童福祉司は採用増の一方、離職も目立つ。児相付設の一時保護所がパンク状態の施設もみられ、専門家は「全件に児相が対応すべきなのか再考する必要がある」と指摘。業務分散の加速が求められる。

＝関連記事1面

「共働きで日中不在の家庭が増え、訪問する児童福祉司の仕事が通常の勤務時間に収まらない」と東京都の江戸川区児童相談所の高橋章友所長は話す。2023年度の虐待対応件数は1967件と、児相設置の都内特別区の中で最も多かった。

安全確認のための家庭訪問が、在宅時間を選ぶと夜になるケースも少なくない。1時間ほどの面談が終わると、それを記録にまとめる作業があるなど負担は大きい。

国は児童福祉司の増員を進めており、こども家庭庁によると、23年度は全国で633人を採用。一方で、退職者は

■ 全国の児童相談所での虐待相談対応件数は、統計開始から33年連続増となった。
山梨県での対応件数は1418件となり、過去3番目の多さであった。

■ 虐待通告から48時間以内に子どもの安全確認を行うルールがあり、
児童相談所職員の業務負担は重く、離職率も高い状況である。

⇒ 「虐待に対する正しい知識」・「子どもの権利」・「相談窓口」の周知／啓発に注力する必要性あり。

活動内容

■「出前講座」の実施

子どもに直接、「子どもの権利」及び「相談窓口」を広く周知・啓発するため、
委員会として各小中学校に出向いての「出前講座」を実施。

⇒ 校長会の場で説明の機会をいただき、要望のあった市内3校で
講義＋ワークショップの形式で実施。



≪ 都留第一中学校 ≫



≪ 禾生第二小学校 ≫



≪ 谷村第二小学校 ≫



プログラム④の評価

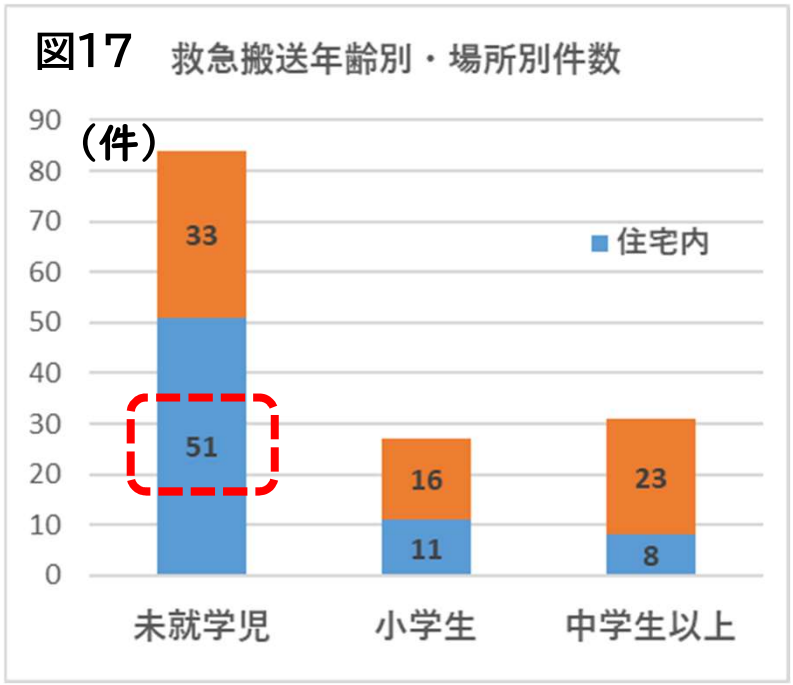
年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	啓発物品等の配布数（定規の配布枚数）	－	－	1,880枚（市内小・中学生）	171枚（市内新1年生）	187枚（R7：新1年生） 164枚（R8:新1年生）
	出前講座回数／参加者数	－	－	－	－	3回／127人
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） 児童虐待に関する意識の向上 ①動画閲覧回数	203回	424回（第1弾：286回）（第2弾：138回）	521回（第1弾：312回）（第2弾：209回）	564回（第1弾：324回）（第2弾：240回）	616回（第1弾：345回）（第2弾：271回）
	②「子どもの権利」を知っている子どもの人数	－	－	－	83人／112人（74%）	31人／55人（56%）
	態度・行動（中期） 児童虐待の相談・通告件数	37件	29件	50件	38件	52件（12月末時点）
	状況（長期） 要保護・要支援児童の人数	96人	102人	114人	113人	121人（12月末時点）

アウトプット － 委員会独自に作成した定規を全ての小中学生に配布・説明する取り組みを継続
アウトカム（短期） － 啓発動画の閲覧回数に加えて、子どもに対して個別アンケートを実施することで認知度を把握
アウトカム（中期） － 市虐待調査の結果を集計して、毎年度の動向を把握
アウトカム（長期） － 市虐待調査の結果を集計して、毎年度の動向を把握

取り組みの成果

項 目	2013~2018年 合 計	2019~2023年 合 計	成 果	参 照
未就学児の住宅内での負傷件数	51件	38件	負傷件数 減少	P44 図17 図18
子育てのしにくさを感じる親の割合	(2017年) 3.4ヵ月:11.6% 1歳6ヵ月:23.9% 3歳:39.4%	(2023年) 3.4ヵ月:6.8% 1歳6ヵ月:12.8% 3歳:20.7%	全ての年代で減少	P45 図19 図20
子どもを感情的に叱った・叩いたことがある親の割合	(2017年) しにくさあり:54% しにくさなし:18%	(2023年) しにくさあり:32.5% しにくさなし:15.7%	しにくさあり 減少	P46 図21 図22
保護者が抱える心理的な負担・不安	(2018年) いずれもない:7.9% 心理的な負担・不安 20%前後	(2024年) いずれもない:10.2% 心理的な負担・不安 20%前後	明確な増減なし	P47 図23

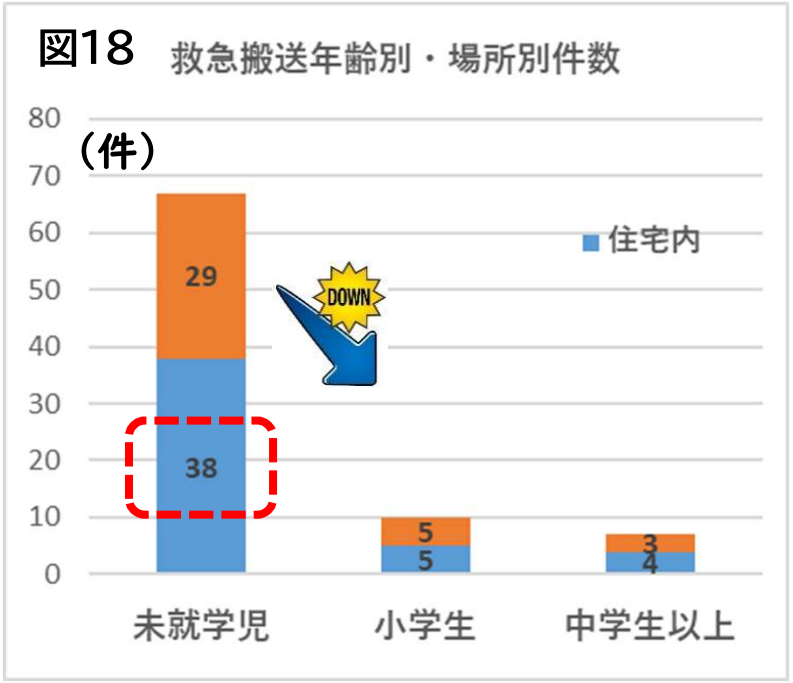
成果①：未就学児の住宅内での負傷件数



出典：2013-2017
一般負傷による救急搬送データ

未就学児の住宅内での
負傷件数は減少

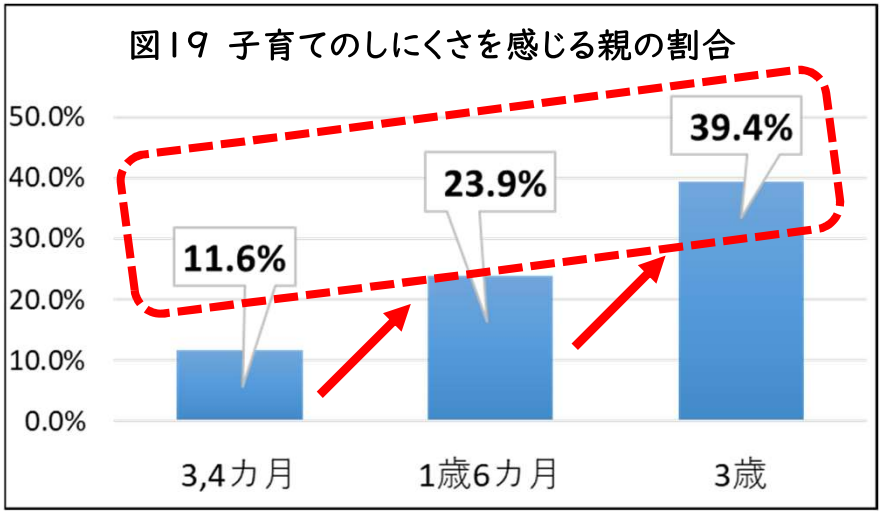
（51 ⇒ 38）



出典：2019-2023
一般負傷による救急搬送データ

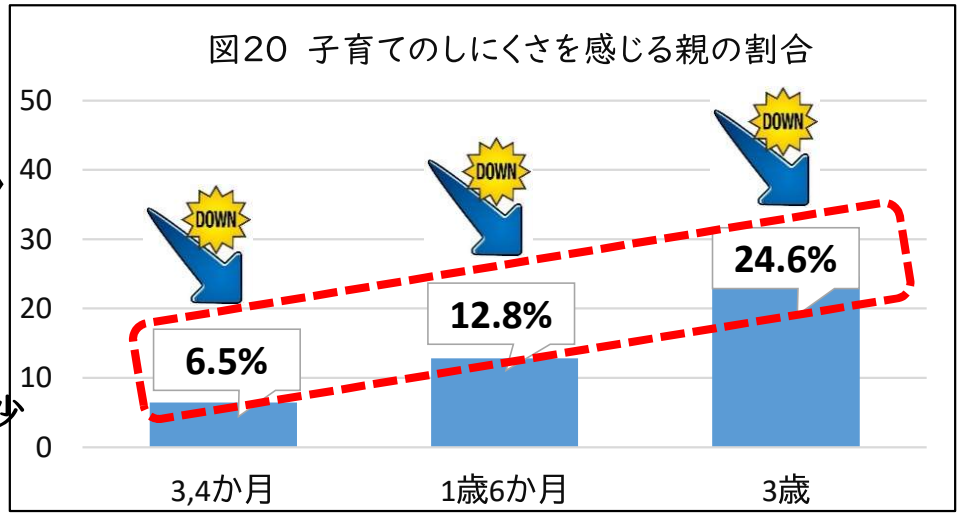
【 定性評価 】
・7ヶ月健診の相談時に啓発チラシや啓発媒体を配布する中で、
「動くようになると色々な事故の可能性があるんですね」や
「家族にも見せてみんなで気を付けるようにします」といった
意識づけに繋がっている声が聞かれている。

成果②：子育てのしにくさを感じる親の割合



出典：2017
乳幼児健康診査データ

割合は減少

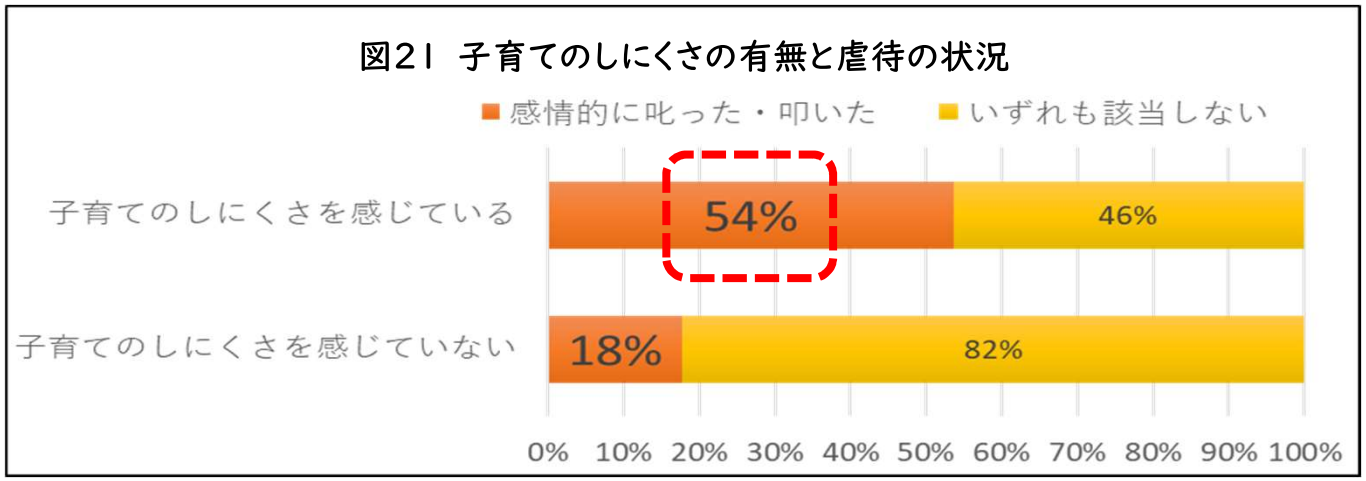


出典：2024
乳幼児健康診査データ

【 定性評価 】

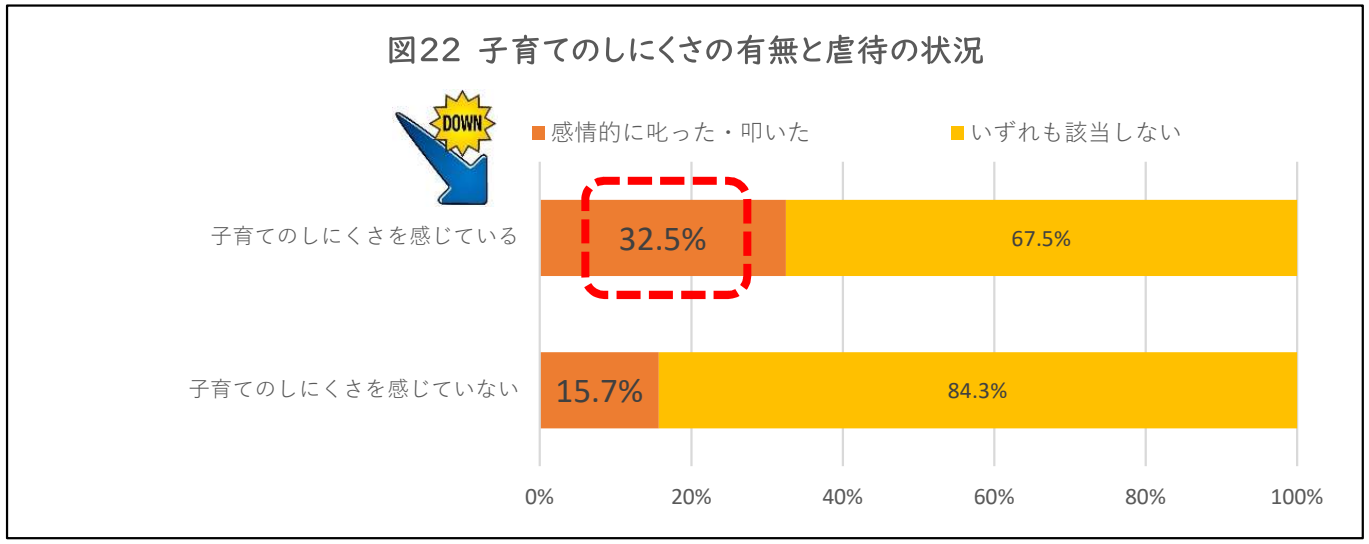
- **2024年8月から、健康子育て課による「つながーる」事業が開始され、相談の場の周知だけでなく、相談の場に行けるようにつなげる支援が開始された。**
  支援した保護者からは、
  「自分では新しい場所に行きにくいからありがたい」
  「相談できる場所が増えてよかった」
  などの肯定的な意見が寄せられている。

成果③：子どもを感情的に叱った・叩いたことがある親の割合



出典：2017
乳幼児健康診査データ

■ 子育てにストレスを
感じている人ほど、虐待リスクが高い。



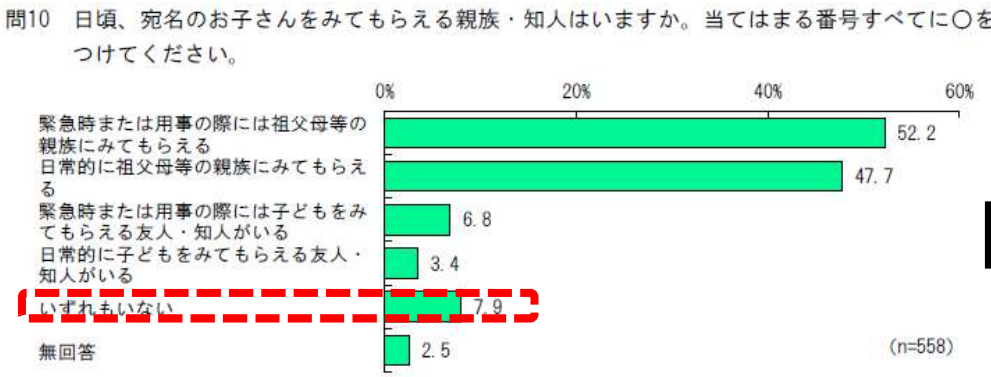
出典：2023
乳幼児健康診査データ

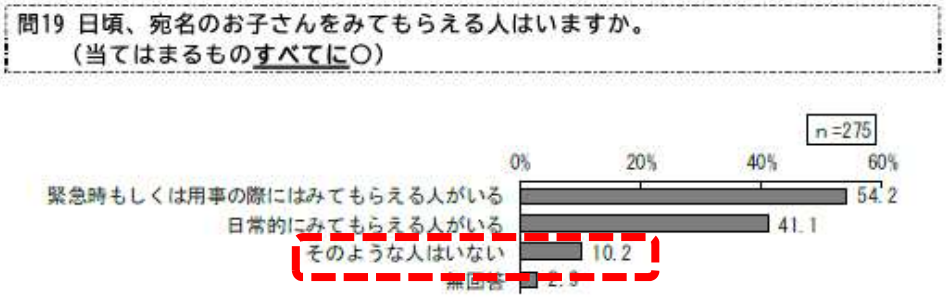
【 定性評価 】
・虐待の通告を受け、市虐待調査を取りまとめている健康子育て課によると、
「虐待は殴る蹴る等の身体に与える体罰的なものだけだと思っていた」という声があり、
心理的虐待やネグレクト等について周知を図り、理解を深めていく必要があるとのこと。

成果④：保護者が抱える心理的な負担・不安

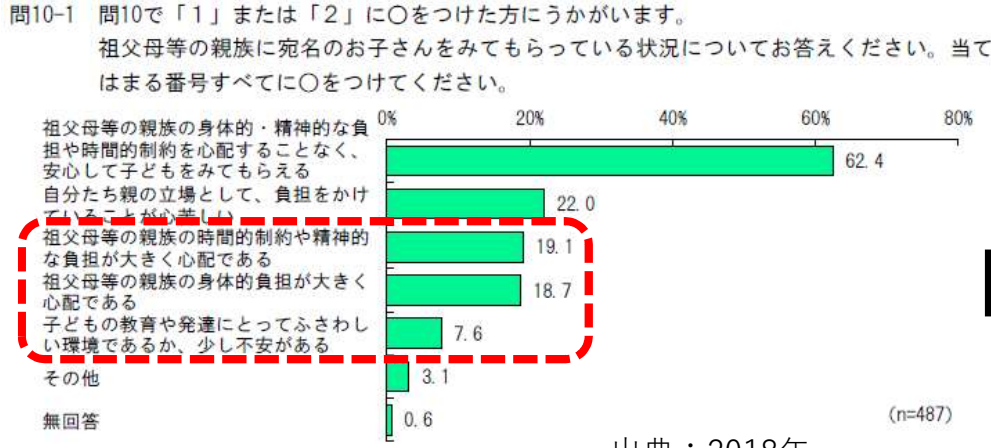
図23：子ども・子育てニーズ調査結果比較

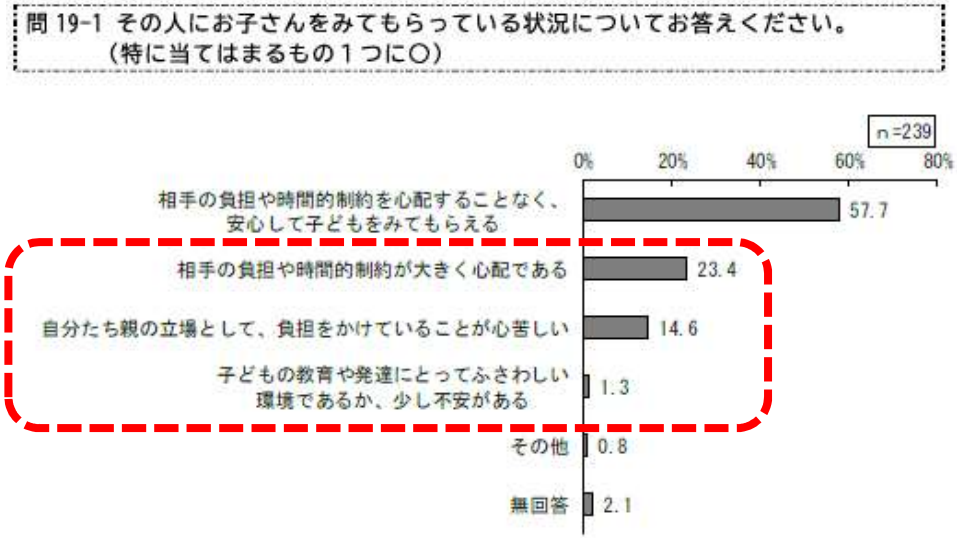
出典：2024年
子ども・子育てニーズ調査





取組による
変化なし





出典：2018年
子ども・子育てニーズ調査

【 定性評価 】

・ニーズ調査の自由意見の中では、「子育て支援センターが多く、どこに行くか迷うくらい」、「他のお母さんとの交流の機会ができて助かる」、「遊ばせる場所が増えて良かった」という前向きな意見が多く寄せられた。

データの収集・分析、リスクアセスメント

2025年外傷サーベイランス委員会「安全診断」の結果とそれに対する対応

安全診断の結果 （外傷サーベイランス委員会の評価）	対策委員会での対応
子どもが自宅で安全に過ごすための対策として、電源ケーブルなどは束ねているかどうかのアンケートをとっているが、どう束ねているかまで聞き取ると良いと思う。	市内で開催されるイベント等の際に、ブース出展する中でアンケートを実施しているが、子連れの保護者に配慮して意図的に選択肢にシールを貼る程度の簡単なものとしている。 あまりに踏み込んだ設問の設定や設問数の増加は、回答数の減少につながるおそれがあるため、いただいた意見も踏まえて、対策委員会で協議し、今後の活動につなげていきたい。
「子育て」についてどう感じているか問うアンケートについて「つらいと感じる時が多い」と回答している方がいる。この方たちにどういったところがつらいのか、大変なのかまで聞き取り、活動のヒントにしてはどうか。また、何人目の子どもかどうかまで聞き取ると良いと思う。	

2025年事前指導の評価と対策委員会の対応

2025年事前指導の評価	対策委員会での対応
子育てにおいて、親の精神的安定というのはとても大事であり、そのような中でいかに親が気持ち的に安定しているかということはとても重要だなと感じます。 親（特に）母親のストレスケアで考えていることはありますか。	ブース出展時のチラシ配付や保護者への対応の中で、市内にも子育てに係る悩みや困りごとを相談したり、情報交換したりできる場（地域子育て支援センター）があること、リフレッシュのために利用できる子育て支援サービス（ファミサポ・一時預かり）があることを周知しています。母親が1人で抱え込むことなく、育児不安や孤独感を軽減し、子育ての喜びを実感いただけるような伴走型の支援を継続していきたいと考えています。
1歳6か月の健康診断時に配っているチェックリストについて、中国では、ユニセフのつくったチェックリストを配っていて、それを確認しながら、こういうことが子どものケガに繋がることをお伝えしています。 このチェックリストも見られると、使えるものもあるかもしれないのでご参考にしていただきたい。	助言いただいた「ユニセフのチェックリスト」の実物が公表されていない可能性があり、本委員会としては認知できていません。 可能であれば提供いただき、内容を確認の上で検討していきたいと考えています。

現在の課題

◆乳幼児の住宅内での負傷原因に変化が見られない。

⇒ 負傷件数自体は減少しており、一定の成果が見られるが、負傷原因は相変わらず、「転落」・「転倒」・「物への接触」等が多く、対策の更なる徹底が必要である。

◆子育てに不安や悩みを抱える保護者が一定数存在する。

⇒ 子育てと仕事の両立の難しさや地域とのつながりの希薄化等、子育てを取り巻く環境に大きな変化はなく、行政等による支援が必要な家庭も存在している。

◆児童虐待に係る相談・通告件数が増加している。

⇒ 児童虐待に係る正しい知識や相談先の啓発を進めるほど、児童虐待に係る理解が促進することは成果であるが、相談・通告件数も増加するため、児童虐待が増えているような印象と捉えられてしまう懸念がある。

今後の取り組み

2021年（認証）	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年（再認証）

プログラム①：乳幼児期の家庭内での事故やけが防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進

【継　続】 啓発チラシ・啓発媒体の作成配布

【拡　大】イベント時等のブース出展

~~プログラム②：学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上~~

保健室来室記録データ分析結果資料の
児童生徒連絡協議会への提供

（ 必要に応じて ）

ISSの取り組み

【検　討】 ISSと連携した取り組み

プログラム②~~③~~：子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知

【継　続】 啓発チラシの作成配布

【拡　大】イベント時等のブース出展

プログラム名③~~④~~：市民に対する虐待に係る正しい知識の周知

【継　続】 啓発チラシ・啓発物品の作成配布

【拡　大】 小中学校等での出前講座



ご清聴
ありがとうございました。

都留市セーフコミュニティ
親と子の安全対策委員会
一同